

ピアノ調律科 取材レポート

「グランドピアノの調律」



龍田

小野寺

諸岡

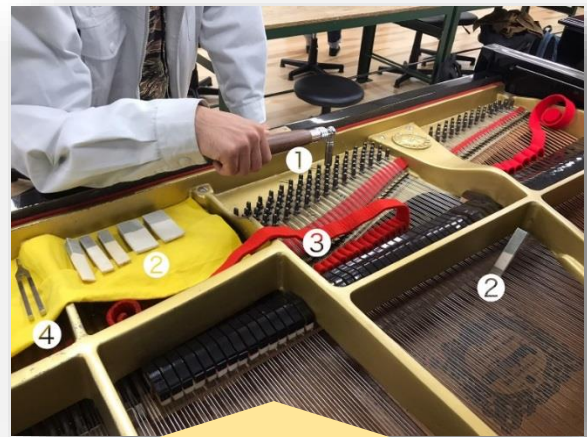
調律とは何ですか？

ピアノの音高を適切な状態に調整することです。ピアノには約 230 本の弦が張られていて、弦を叩くことで発音します。弦の張力を変えることによって、音高を調整します。



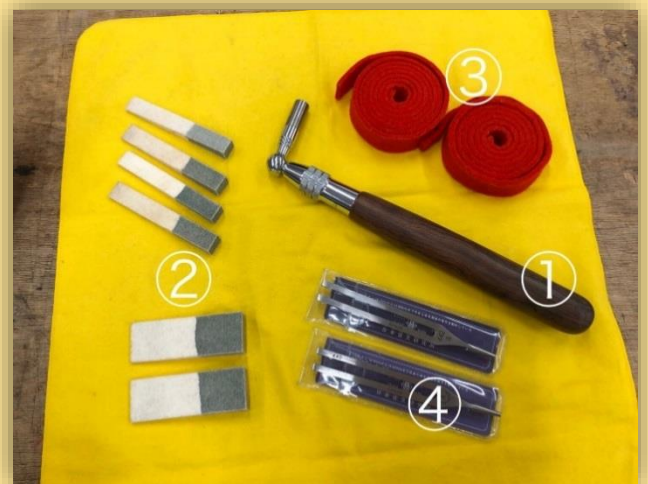
調律はなぜ必要？

ピアノは気温や湿度などの影響で音色が変化してしまうため、定期的に調律をすることが大切です。精密機械のようなピアノは他の楽器とは違い、演奏者自身が調整をすることができないのでピアノ調律師が調律などを行います。



〔調律に必要な工具〕

- ① **チューニングハンマー**
チューニングピンにさして、音の高さを変える工具。
- ② **フェルトウェッジ**
弦に接触させ、音を止める工具。幅が広い方が低音域、細い方が中音高音域に使用します。
- ③ **ロングウェッジ**
広範囲の音を一気に止める工具。主に中音、低音域に使用します。
- ④ **音叉**
基準の音の高さを決める工具。



調律師が聴く音とは？

音を作るときのポイント♪

“うなり”と呼ばれる、音と音がぶつかった時に起こる音の波を聞きながら調律をしています。音は目に見えないため“うなり”の速さで高いか低いかの判断をします。正しい位置で音階を作れたら、和音などを弾きながら音の響きを聴いて、明るい音やきれいにまとまっているかなど、印象も確認します。また、作った音が弾いてすぐ狂ってしまわないように、きれいな音の位置で止める訓練をします。

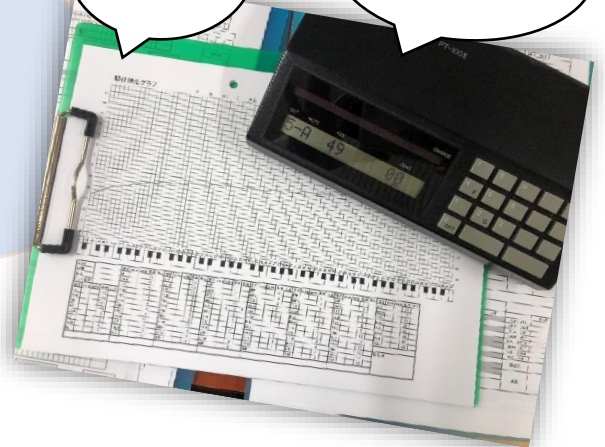


チューナーとグラフ

音は目に見えませんが、チューナーを使って音の数値をグラフ化し、ピアノ一台の調律精度を確認しています。理想の音のグラフと自分のグラフとを比較し、どこの音が得意で苦手かを理解しながら調律の精度を高める訓練をしています。

グラフ

チューナー



2年間の学びだから、詰込みではなく、じっくりとグランドピアノも学べます。



〔ピアノ調律科の魅力〕

クラス担任制で、一人ひとりに合った指導を受けることができ、同じ夢を持った仲間とモチベーションを高め合いながら頑張れます。さらに、段階的カリキュラムで一つひとつの技術が確実に習得できます。

本校は国家技能検定の試験会場であり、普段の環境で試験に挑めることも魅力。

そして、ピアノ調律科の先生は全員ピアノ調律技能士一級を取得しているので安心して学べます。

